

Y02a 「天文」から「宇宙」へ - 浅口市民講座の試み

前原英夫(岡山大学非常勤講師)、栗野諭美(岡山天文博物館)、奥原貴子(浅口市教育委員会)

国立天文台岡山天体物理観測所は開所以来 40 数年間にわたり、188cm 望遠鏡を主力装置として広く全国の研究者に開かれた光学赤外線観測施設であり、また併設の岡山天文博物館はプラネタリウムや展示など、宇宙を体験できる一般・地元への窓口である。そして、天文台誘致以来岡山県と地元自治体による環境保全や光害防止の啓発・対策等の支援をえながら、大過なく観測が進められ、研究成果があげられてきた。

このような経緯の中で、地元との連携の一端として、また「晴れの国」に相応しい天文学振興の一助として「天文講座」を開設することとした。教育委員会主導のもと、鴨方町民会館を主会場とし、年間 5 回程度の講演会を行い、地域住民に広報し参加を呼び掛ける。トピックス紹介やビデオ上映等の前座に続き、講師による研究成果の解説や一般講演が行われる。講演は観測所に来訪する研究者、あるいは研究機関の教官・職員にお願いする。

この講座は観測所と博物館が共催することで 1993 年始動したが、第 1 回目は参加者 1 名。周知・広報に努めつつ開催するうち、徐々に参加者が増加し定着し、15 年間にわたり継続している。興味ある講師やテーマの場合参加者が溢れて会場を変更したり、時にはスターウォッチングや自治体のイベントとも連動しながら、常時 20~30 名の参加者が「知るを楽しむ」講座となった。本来地味なこの教養講座も、斯くして存続している。

合併で浅口市(2006年3月)となっても講座は続いているが、これを機に見直しを行い、(1)テーマの拡充、(2)広報・会場の充実、(3)講演レジメのウェブ公開、を図った。名称も「宇宙 自然講座」と改訂し、話題・対象を広げ、宇宙・地球・自然と私たちの関わりを扱うこととした。天文以外の講演は、主に大学の自然科学系の研究者にお願いしている。地元ケーブルテレビの取材・放映があることもあり、市民講座の一つとして確立し、広く地域住民の宇宙や自然への興味、環境保護や防災への関心を深める機会を提供している。